月刊ふじ

10月号

≪今月の表紙≫

中学１年　　柴田　いと葉　さん

今号の内容

【特集】

美術「中３　季節を表す型染め　～愉快な仲間 編～」

美術部「中学生 絵手紙」

家庭科「高１　ホームプロジェクト」

【連載】

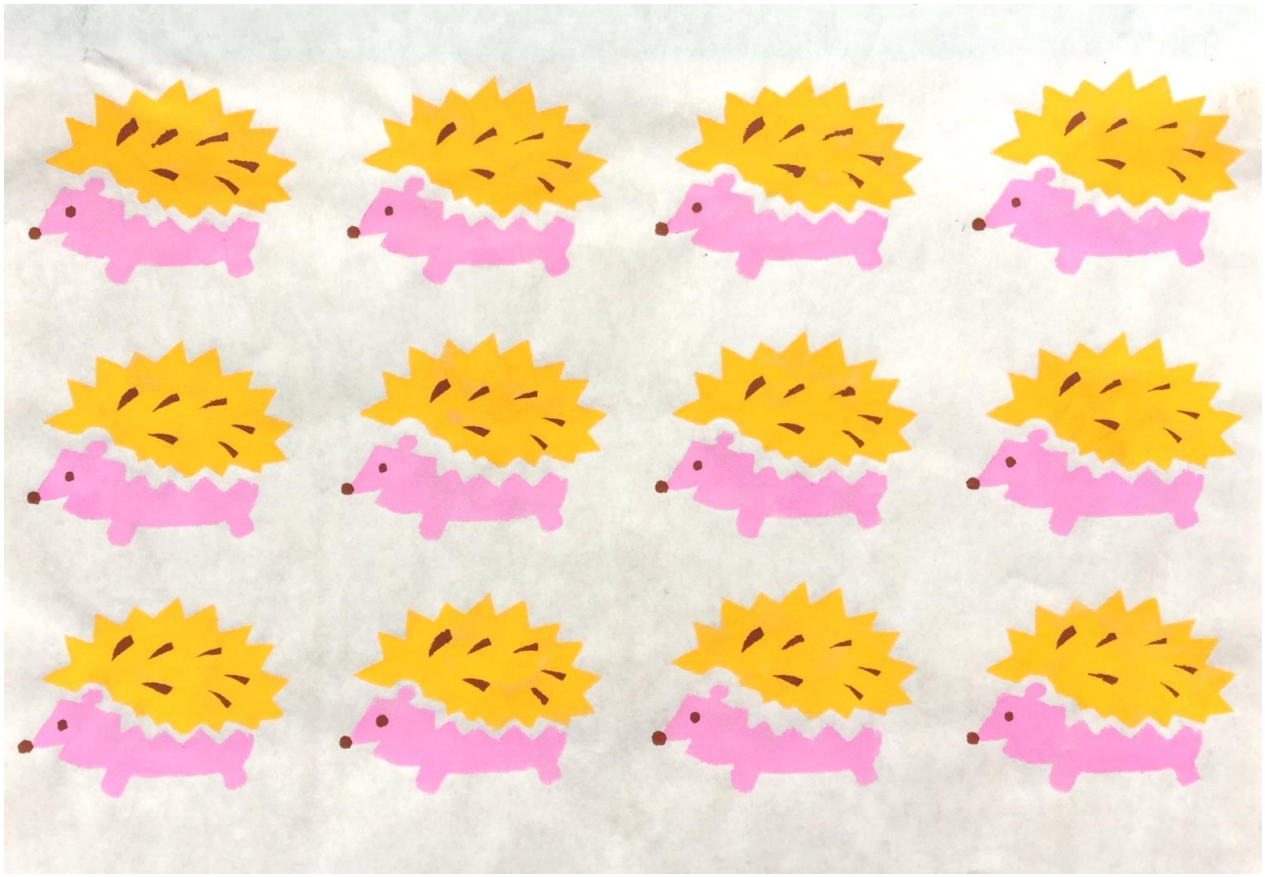
67 回生 飯田花織「関西通信」

「中3　季節を表す型染め
～愉快な仲間　編～」

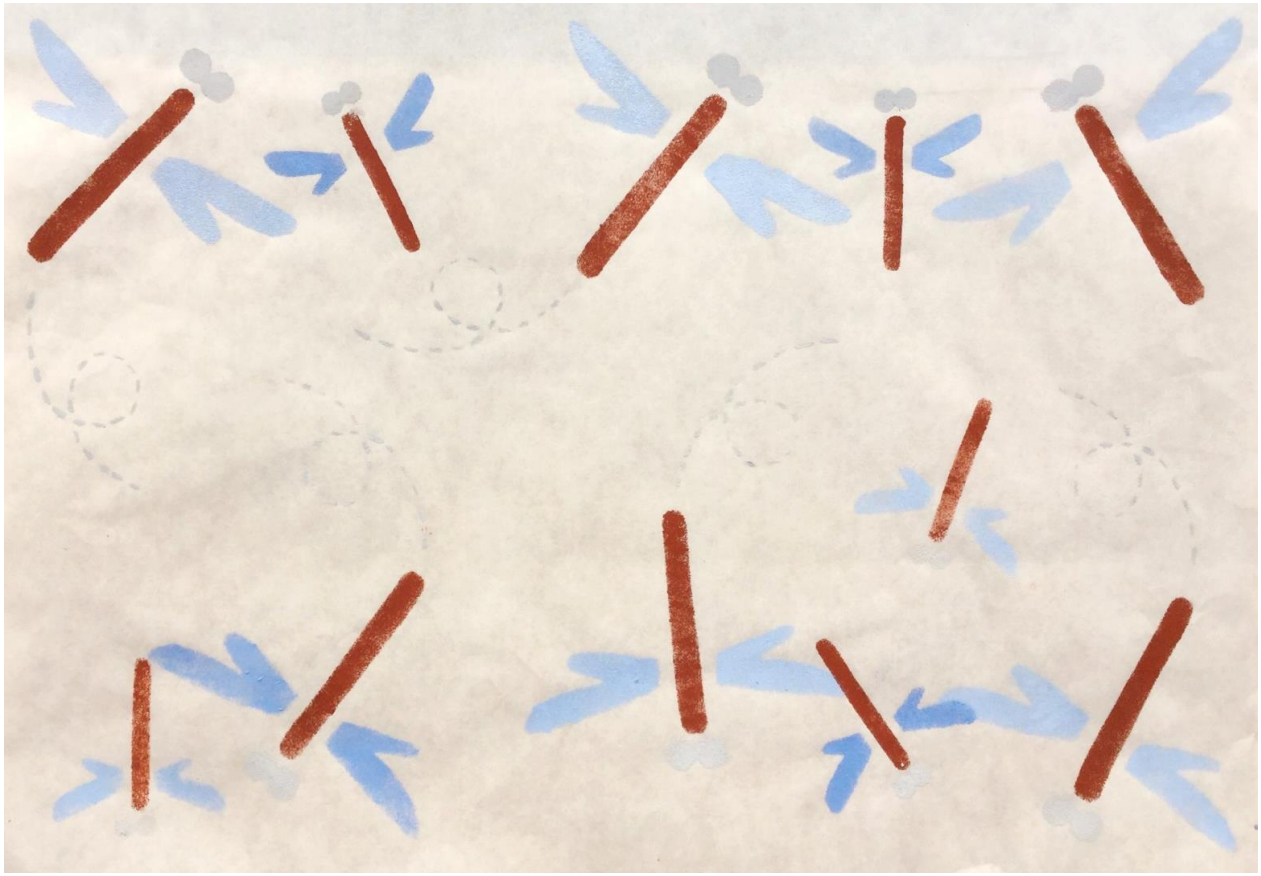
型紙を利用して、和紙をオリジナル模様に染めました。

染めるときに重ねられるよう型自体を工夫したり、連続してつながりが出るように配置したりして、それぞれがデザインに趣向を凝らしています。

今回は可愛い生き物などのキャラクター性のある柄を集めてご紹介します。それぞれの表情をお楽しみください。

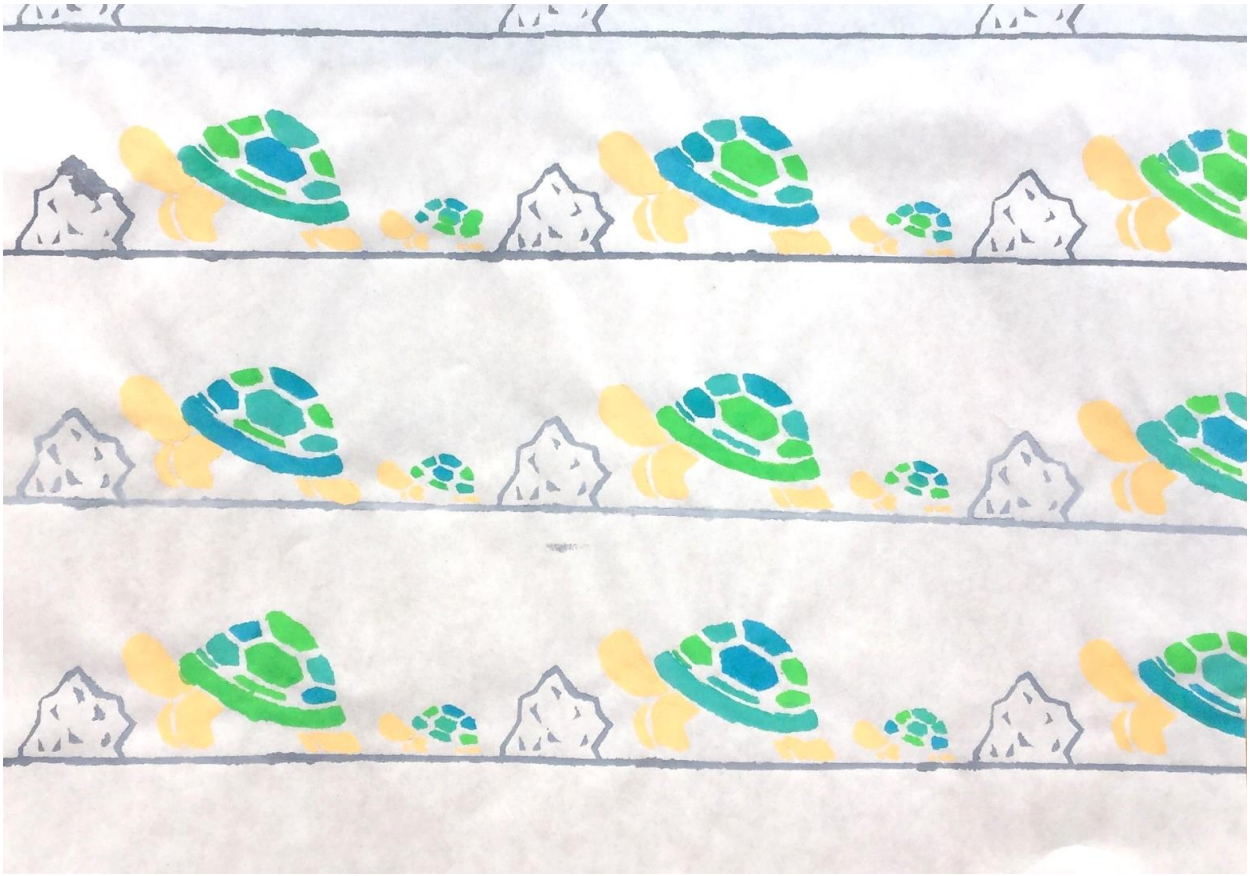


Ｋさんの作品

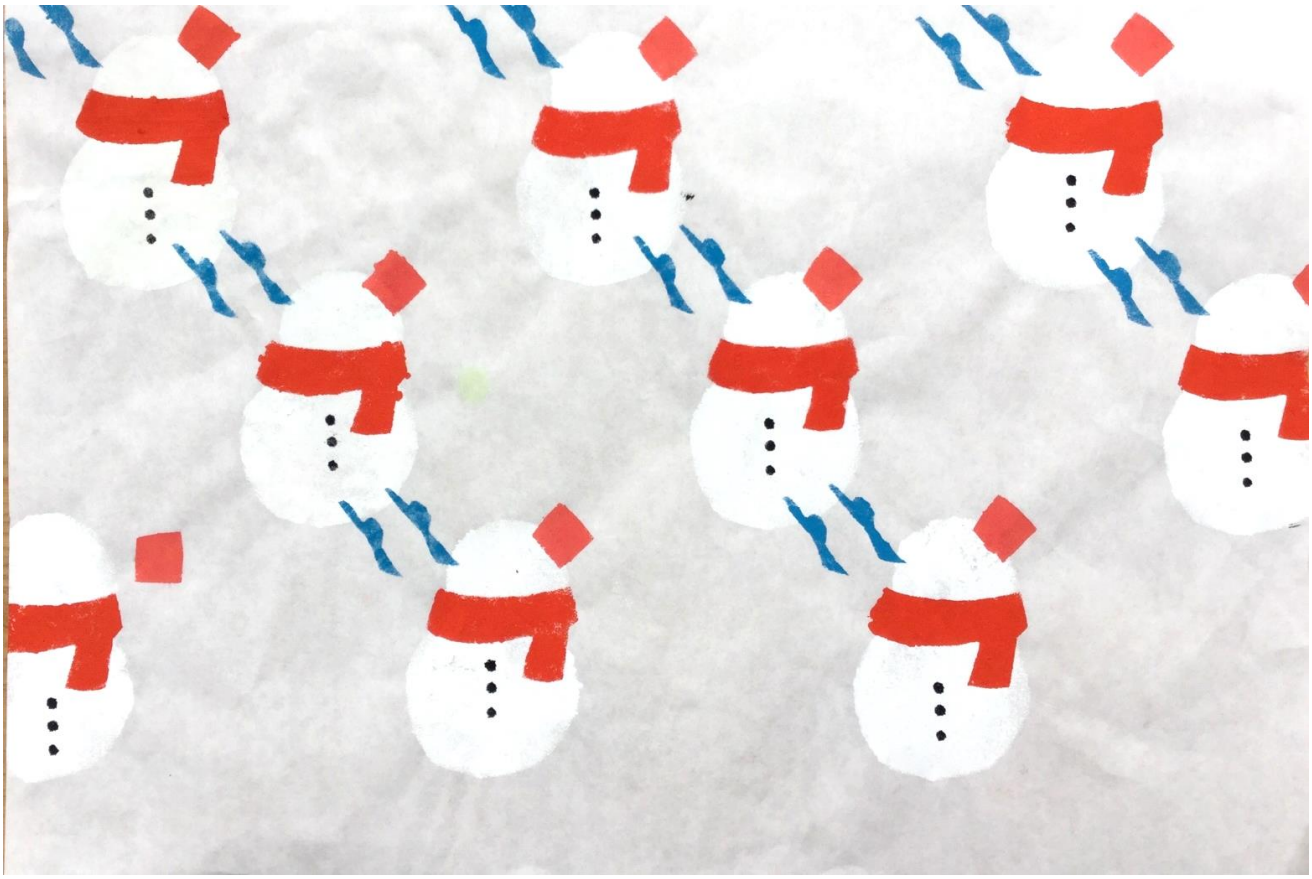


Ｍさんの作品

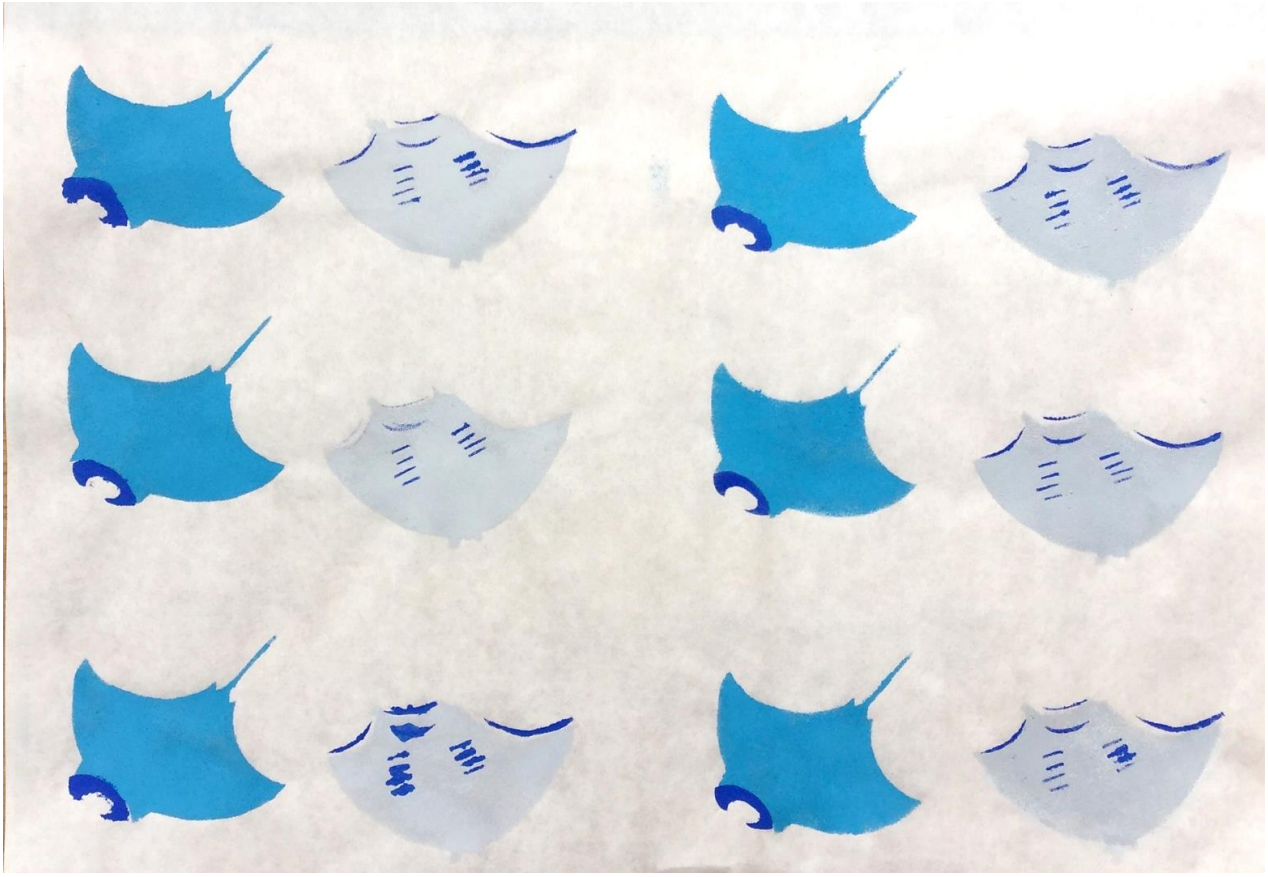
Ｙさんの作品



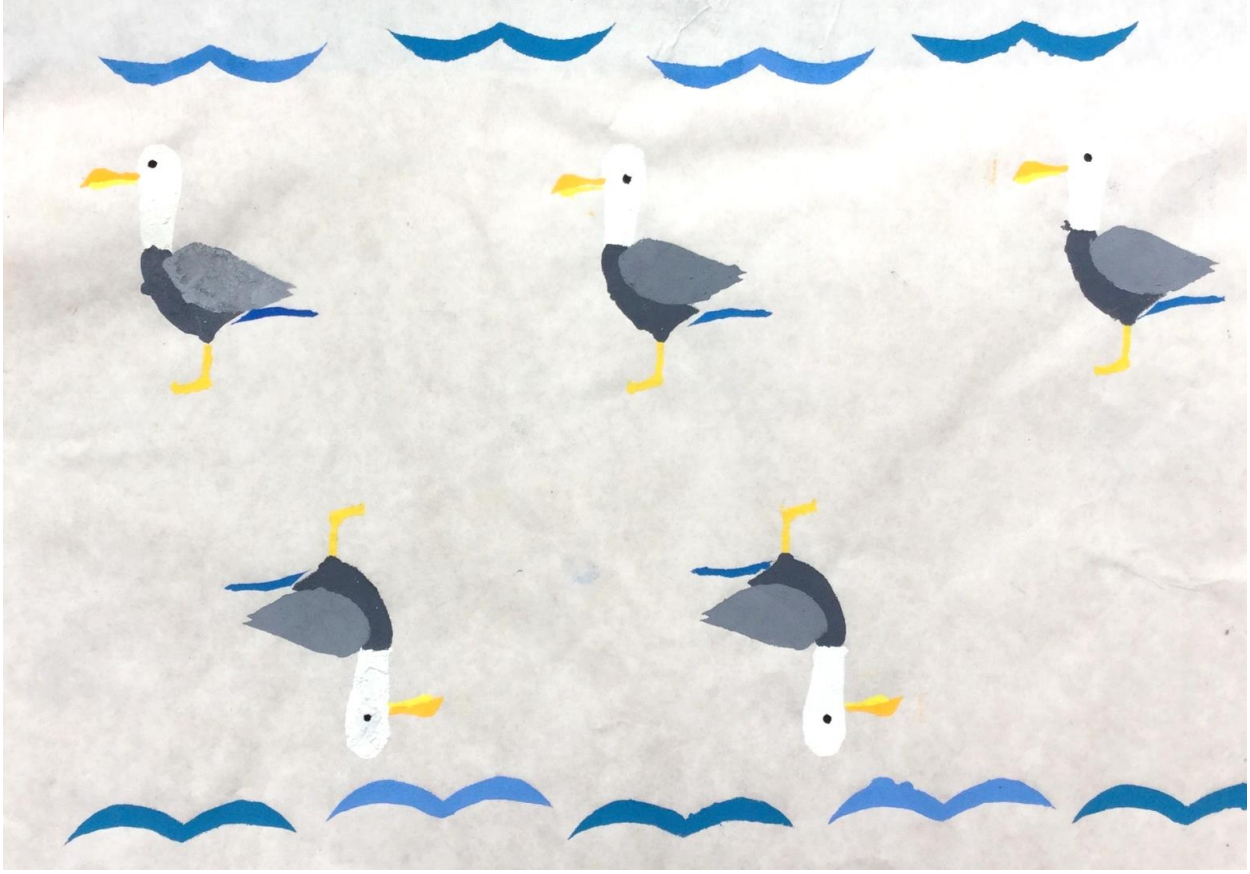
Ｉさんの作品



Ｉさんの作品



Ｓさんの作品

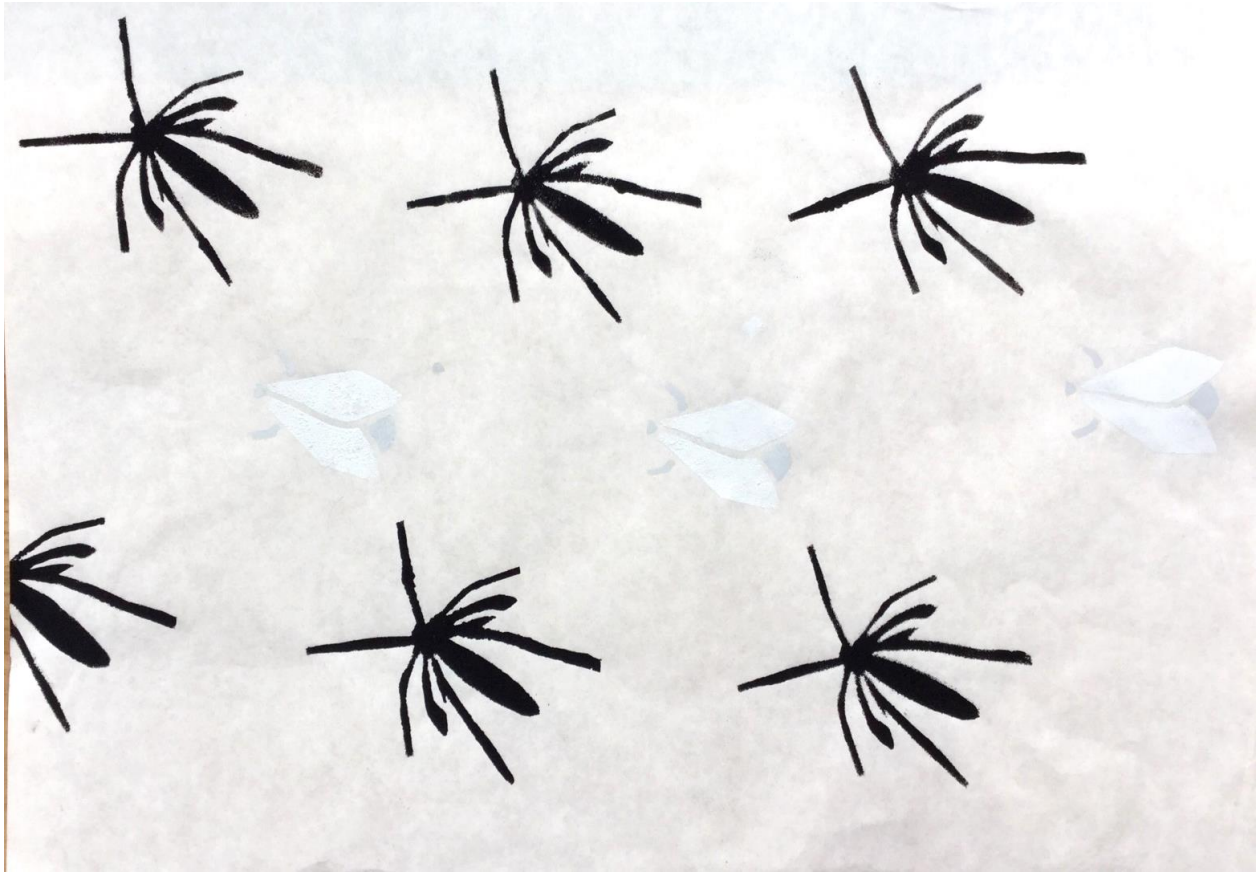


Ｍさんの作品

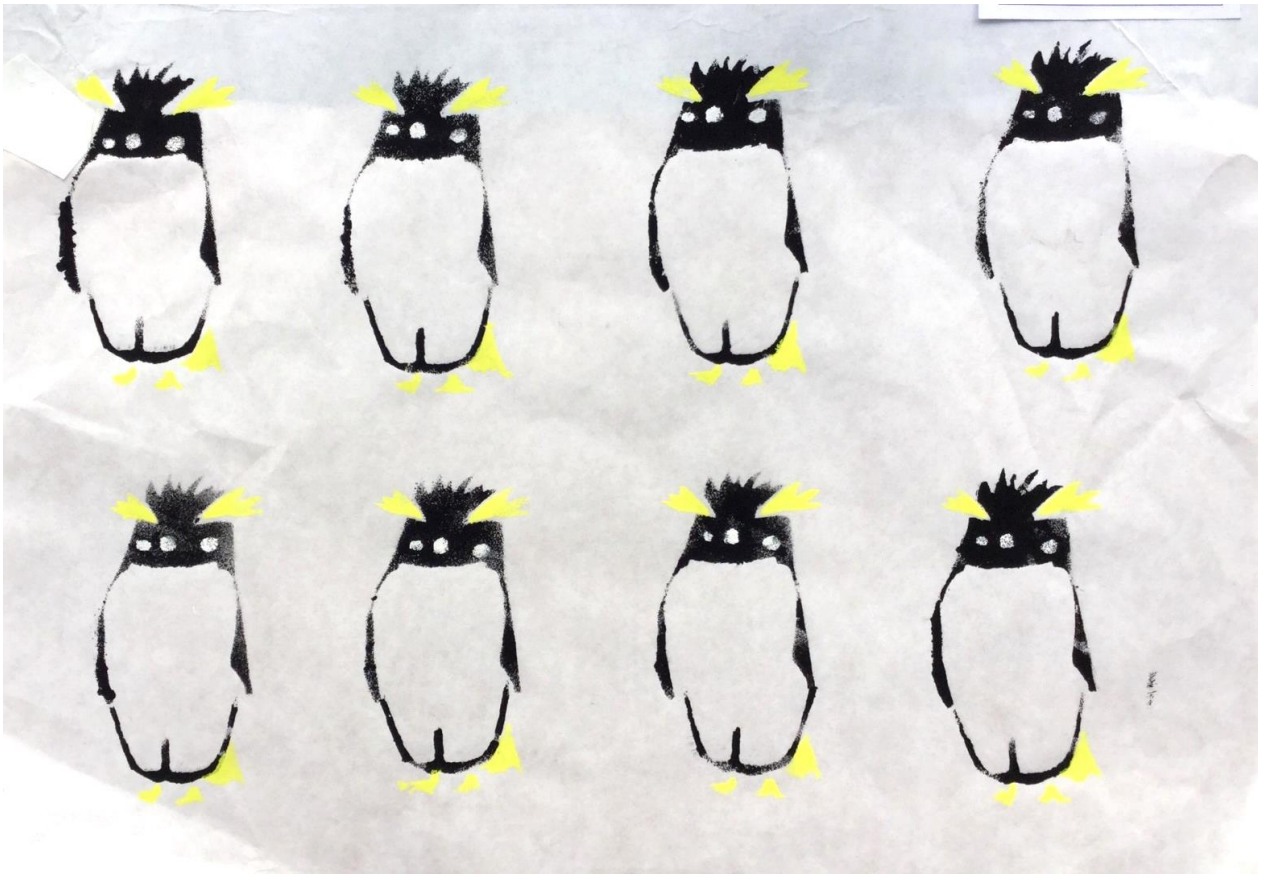
Ｎさんの作品

Ｎさんの作品

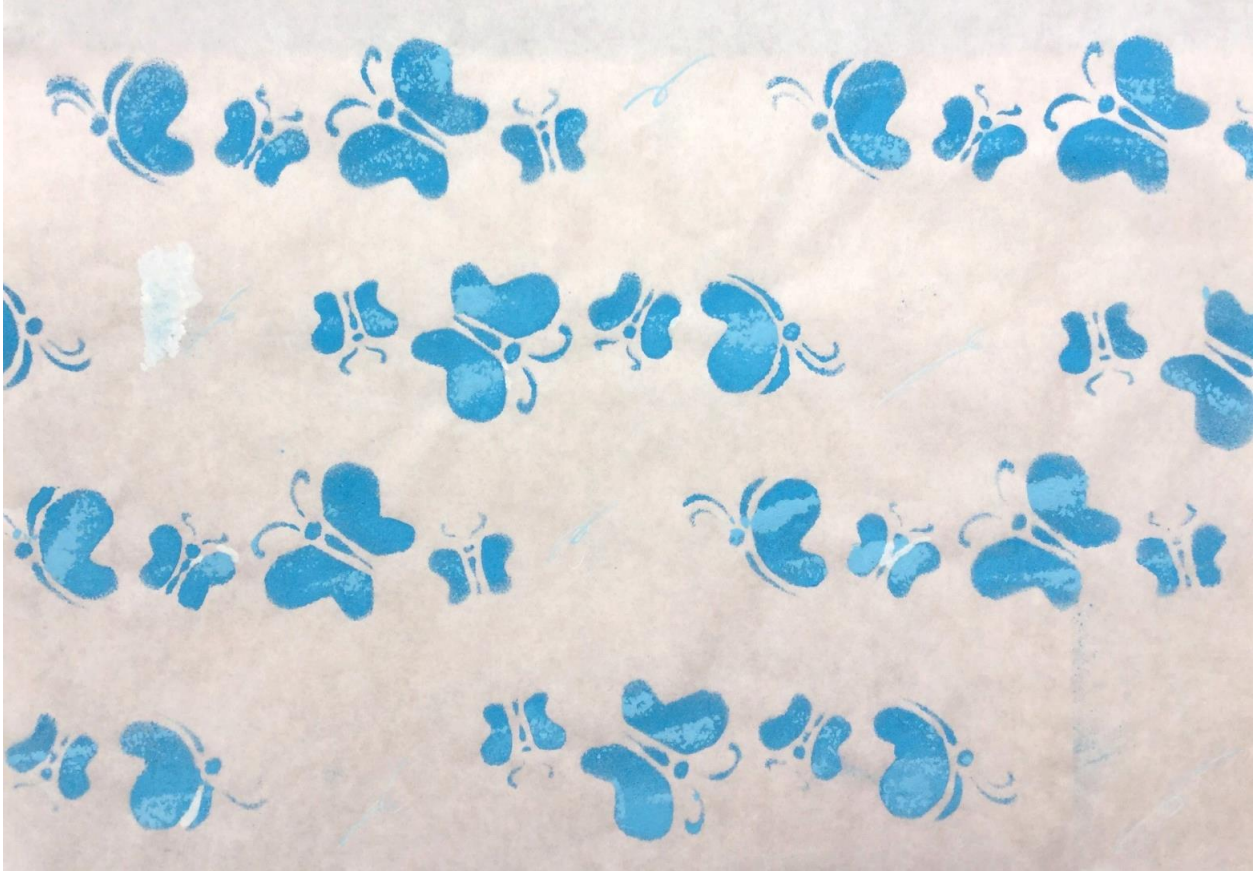
Ｉさんの作品



Ｔさんの作品



Ｓさんの作品



Ｋさんの作品

Ｔさんの作品

「美術部　中学生　絵手紙」

花をテーマにした絵手紙を描きました。それぞれ、思い思いの花をスケッチした後に、大切な人へ宛てたメッセージを書きこんでいます。文字にも個性が出ており、描いた人と送られる人との関係が想像されます。

これらの作品は、愛媛県松山市の北条地区主催の花笑手紙コンテストに応募し、２点が入賞しました。皆様にも笑顔の花が咲きますように。

左上から　中３　Ｉさん、中１　Ｔさん、中２　Ｈさん、中２　Ｉさん

左上から　中１ Ｉさん、中２０さん、中２ Ｈさん、中１　Ｍさん

左上から　中１　Ｙさん、中１　Ｋさん、中１Ｋさん、中１　Ｉさん

左上から　中１　Ｓさん、中１　Ｓさん、中１　Ｓさん、中２　Ｔさん

左から　中２　Ａさん、中１　Ｔさん

上から　中２　Ｎさん、中１　Ｙさん

左から　中１　Ｈさん、中３　Ｓさん

「高1　ホームプロジェクト」

高校の家庭科では全員に「家庭の中での課題を見つけ、それを改善すること」が課されます。生徒たちは生活の中から実に様々な課題を見つけ、その解決・改善に挑みます。

実践したプロジェクトは、①課題設定の理由、②実態調査、③実態調査から見られる問題点、④改善案、⑤実践記録、⑥反省・評価・考察 の順にまとめることを求められます。

家庭生活の実感・実体験から生まれる、高校1年生の等身大のレポート。今月号では「汚部屋」が劇的に変化します！

汚部屋を
クリーンでスウィートな
空間にする

Ｈさんの作品

もくじ

プロローグ(実態とテーマ選定の理由) …2ページ
1.現状を変えるために …3ページ
2.こんまりさんとの出会い(文献紹介) …3ページ
3.綺麗にするよ(実践の方法と記録) …4ページ、5ページ
4.スウィートを求めて(仕上げ) …6ページ
5.ビフォーアフター(実践の結果と継続の記録) …7ページ

まとめ(今回の取り組みについての感想と自己評価と効果と家族の評価) …8ページ

おまけ …9ページ

プロローグ

私には部屋は無かった。三兄弟であり、末っ子の私には部屋など与えられなかった。なのでリビングの一角の勉強スペースが私の「部屋」となっている。

今回、その「部屋」をテーマ通りクリーンでスゥィートな空間にする。なぜそうしたいと思ったのかというと、私とリビングの一角を共有している姉にたまに、というか毎日、汚いやら物がこっちまで侵入してきているやら、苦情を言われていた。言われる度に足で物を避けて「これでいいでしょ？」と済ませていた。母にも「もはや山(笑)」と言われるほどだった。何を言われても私は「山？上等だよ。ってかみんなに迷惑かけてないし全然危害もないし。しかも、ここ私の陣地だし！？構うな！！」とずっと思っていた。

しかし私はある日気づいたのだ、作業効率が下がりまくっていることに。私の机はかなり前からお菓子、飲み物、教科書、ノート、謎の布、ペン、ハサミなどなど机に居てはいけないものたちも集まって山を作っていたのだ。また、その周りの床でさえも地面を埋め尽くす程の物が散らばっていた。

私はオンライン授業が始まり、家でコピーすることが増え、プリントが増えた。山に紛れ込んで行方不明のプリントが大発生した。探していると山は崩れる、時間はかかるで実に苦労した。また、山があることで私は机で授業を受けられなかった。最初はリビングの机で授業を受けていた。しかし、テレビの音、ご飯の匂い、お菓子など誘惑は多かった。このままではいけないと思い解決策を考えたところ、ひとつの光を見つけた。「机で授業受ければいいのだ」と。

そうして、私のこのプロジェクトが始まった。

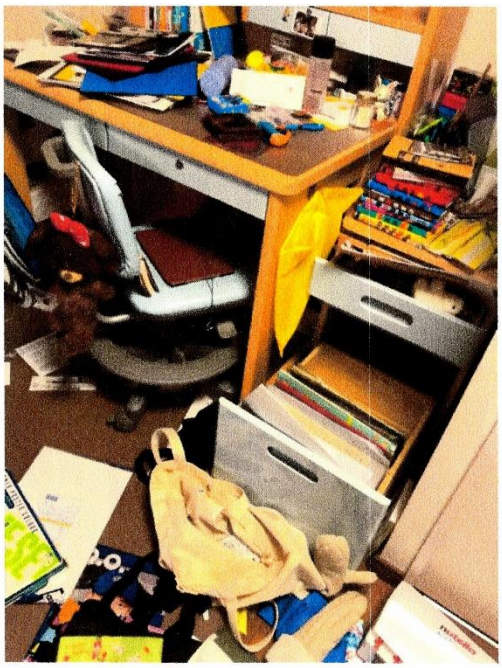
1.現状を変えるために

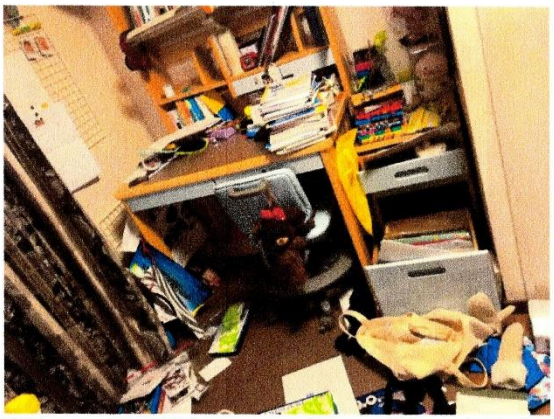
とりあえず片付け術を知る。そのために何か参考になりそうな本とかを探そう。日程は片付け自体は2週間くらいかけてやる。それから継続出来ているかを写真で記録する。

2. こんまりさんとの出会い

私の「汚部屋をクリーンでスウィートな空間にする」プロジェクトはまずある本を読むことから始めた。近藤麻理恵さんの「人生がときめく片付けの魔法」という本だ。近藤麻理恵さんはこんまりさんと親しまれ、少し前日本のテレビで引っ張りだこだった人だ。こんまりさんはいま海外進出をしていて、この本はアジア圏からヨーロッパまで全世界で売られているし、Netflixではこんまりさんの番組があるほどだ。そして片付け＝konmariといわれたり、街で歩いていたら声をかけられるほどの有名人なのである。片付けの習慣がないアメリカではそれがすごくウケたのだとか。そして、こんまりさんは本の初めの方で宣言していた。「リバウンドはしない」と。私は本を読み切って「ぼちぼちやってけばいいか」と思っていたのに「今すぐ！片付けたい！！」と思った。机に向かうと巨大な山が立ちはだかっていた。

3. 綺麗にするょ

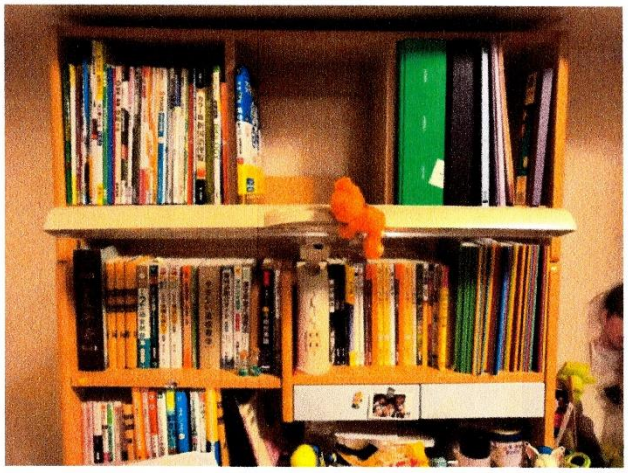


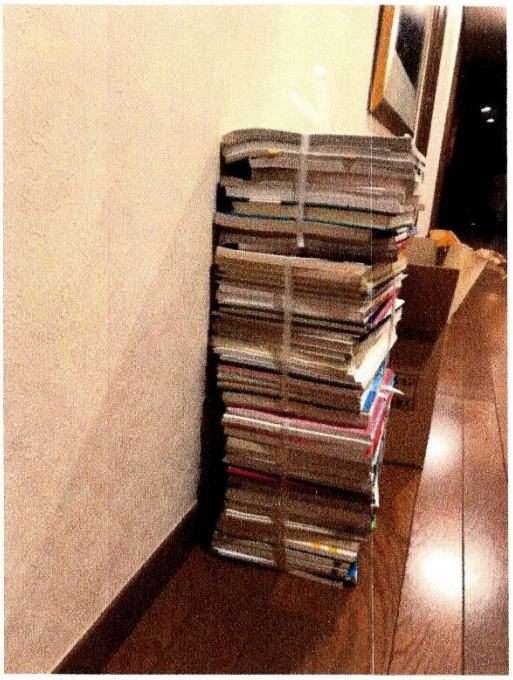


※初めに写真撮るのを忘れて棚の中片付け進めた時のだから始めた時ははもっともっと酷かった……(4月18日)

上の通り私の机は空き巣に入られた後のようだった。こんまりさんはとりあえず全部物を出して種類で分けて「ときめくか、ときめかないか」で物を捨てていくと言っていた。ここで注意したいのが、場所で分けるのではなくものの種類で分けて捨てていくことだ。棚の中の教科書、ノート、本全部だして広げて「ときめくか、ときめかないか」で捨てていった。こんまりさんも言っていたが、「ときめくか、ときめかないか」は触ればすぐ分かる。教科書は触ってもときめかないので捨てる。なんてことは出来ないので仕方なくとっておいた。とりあえず全て捨て終わって徹底的に捨てて、捨てて、捨てて……。収納は捨て終わってから

考える。このスペース空いてるからこの本入れようとか考えないように後から考えるそうだ。





そうして捨てるのが終わり、棚に戻していくと、元々は棚全体にパンパンに入っていたのに一部屋空きが出来た。感動。右はここから出たゴミ達。こんまりさんは捨ててしまうモノたちにも感謝の気持ちを伝えましょうと言っていたので、感謝して捨てた。ありがとう！

私はいつか使えそうなゴミとかただのガラクタに魅力を感じてしまうのでそういうよく分からないものを大量に溜め込んでいた。例えばラップの芯とか、よく分からない綺麗な石とか、刃物みたいにとんがったプラスチックなど。こんまりさんは「いつかはこない」と言っていたので私はいつかは来ないのだと知り、溜めてたゴミを手放した。そうするとなんだか吹っ切れてよく分からないガラクタも「ときめかないや」とポンポンとゴミ袋に投げて行った。ゴミ袋は40リットルを１人で使い切るくらいはあった。そんなに溜め込んでたのかと恐怖感を覚えた。私の机の下の収納は元々バックとガラクタたちがすしずめ状態で入っていたが、こうなった。(左参照)

あらやだ、余裕がある。昔はすしずめ過ぎて人１人くらい隠されていてもおかしくないような、恐ろしい収納だった。それが余白の美を残しつつ、種類別で収納されている。感動。

4, スウィートを求めて

これらのように捨てて、捨てて、捨てて、戻して、戻してを繰り返し、私の空き巣に入られた後のような机は見違えるように綺麗になった。女の清潔感を取り戻したのだ。しかし、ここで忘れてはいけない。今回のテーマは『汚部屋をクリーンでスウィートな空間にする』だ。クリーンは得られたが、スウィートは得られていない。スウィートにしたい。スウィートとは具体的に言えば「女の子であることを感じさせるとともに私自身が幸せだと感じられる」ということである。私の幸せそれは私の推しくんに決まってる。お前の幸せは俺の幸せ。ということでお飾りを施し、ついに完成しました私の「女の子であることを感じさせるとともに私自身が幸せだと感じられる」部屋が。

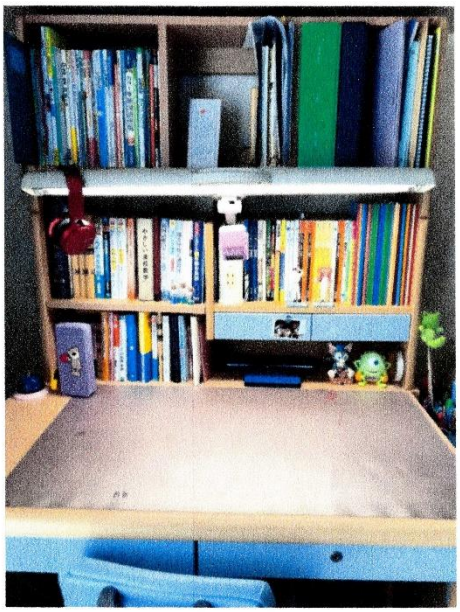
←パッと見まぁ可愛らしいお部屋。

↓右を見ると幸せが広がっている。

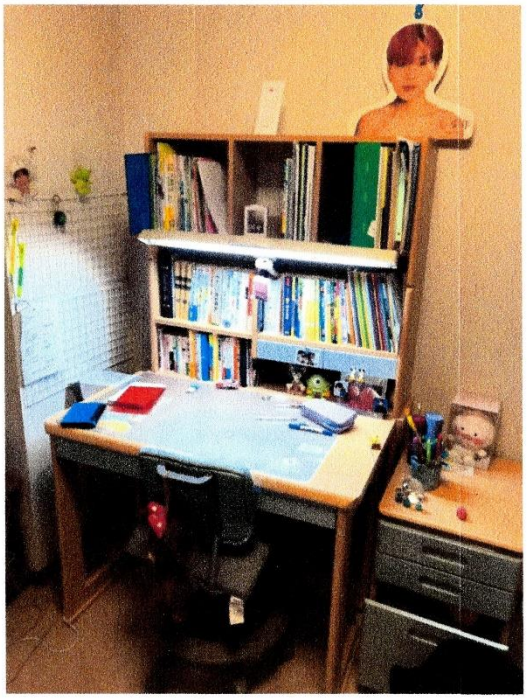
5 ビフォーアフター

比較してみた。

泣きそう。私は今まで何言っても片付けなかった。家族は生まれ変わった私にとても感動していたし、「どうしちゃったの」と何度も言われた。
今でもこの綺麗さは維持されている。



↑5月頃



↑今(部屋が与えられた)

まとめ

今回、ホームプロジェクトがなかったら進んで片付けをしようなんて思えなかったのでホームプロジェクトがあって良かった。綺麗になって私は探し物をすることが無くなったし、提出物遅れなくなったし、なんでか分からないけど痩せたし、綺麗だと何でも捗るし、親には褒めて貰えたし、兄妹にも褒めてもらったし、いいことしか無かった。すごく幸せになった。片付けひとつでこんなに色々ないいことがあると思っていなかった。素晴らしかった。ありがとうございました。

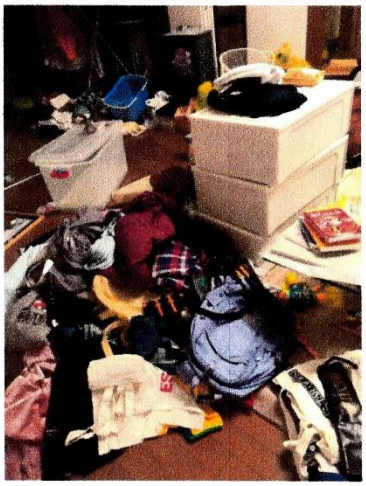
「普段、言っても言ってもやらない子が自分からやったことに感動。綺麗で感動。成長を感じた。学校のロッカーは頑張ろう。」母より

「えー、すっきり、快適快適(全て棒読み)」姉より

諸事情により父、兄省略。

おまけ

私の変わりように驚いた母と父と兄が本を読んだ。家は大変なことになった。断捨離祭りが始まった。こんまりさんの片付けの方法、全て出して捨てるを全員実践した。数日リビングは服、カバン、本の山で埋まった。リビングの正しい使い方を忘れた。量が多すぎて訴えられるレベルでゴミが出てきた。40 リットルのゴミが 20 個以上出てきた。



今家はいつでも人が来ても大丈夫になった。今までは人が来るとなれば死ぬ気で片付けて掃除して……大変だった。今は物も少なく掃除も面倒くさくないし常に綺麗だから片付けを死ぬ気でやるようなこともなくなった。

←片付けしてない

「関西通信」

同志社大学文学部文化史学科を卒業し、現在は大阪大学大学院の文学研究科で日本画の研究をしている、67回生の飯田花織さんの連載第4弾です。

今回は、夏休みの帰省と、ようやく本格的になってきた大学院生活の様子です。中高時代から変わらないこと、変わったこと。素敵な写真とともにお楽しみください。

夏休み、久しぶりに北海道に帰省しました。GO TOの波に乗って函館観光に行った時の写真です。中学宿泊研修は、私達の二つ下くらいの代から始まったので、研修から帰ってきて「函館のごはんが美味しかった！」と喜んでいる後輩がとても羨ましかったのを覚えています。人生初の函館は期待通りごはんが美味しくて気候も涼しく、良いところでした。

BAY

札幌では藤の同級生とも会いました。大学院や6年制の大学に通う友達、社会人として働く友達など状況はバラバラですが、6年間を共有した同級生のありがたみを卒業してから強く感じています。大人になると、競い合ったり本音をぶつけ合ったりしながら人と仲良くなる経験はできなくなっていくので。写真は函館のやきとりvs.ピエロ。

元祖
やきとり弁当
ハセガワストア
ハセガワストア
酒
コンビニエンスストア
やきとり弁当
わさびごはん
トリプル
発売中
やきとり弁当
LUCKY PIERROT
ラッキーピエロ
1987

夏休み明け最初の見学演習で、お昼休みに食べたわかめカレーうどん。意外な組み合わせが美味しかったです。最近は演習で遠出をしたり文化財調査のアルバイトで作品を実際に触ったりと、Zoom の世界から脱出しつつあって、思い描いていた大学院生活がようやく始まったような気がしています。

日本画の展覧会を観るために嵐山に来ました。私はアルバイトとして日本画の画賛（絵画作品の余白に添えてある詩文）のデータ整理もしているのですが、研究のアルバイトが自分の好きな作品と結びつくとそれぞれの見え方も変わって楽しいです。感染症の流行で多くの展覧会やエンターテイメントが失われた状況の中で、社会の役にたたないと言われがちな美術研究も、実は多くの人の文化的な生活を支えているのだと気づきました。

高校時代は日本史の資料集を眺めるのが好きで、休み時間に友達と、デフォルメされた絵画のページをめくりながら「デッサンがめちゃくちゃで下手じゃない？」と言ってゲラゲラ笑っていた記憶もあるのですが、美術史を学んでいるとそれまで理解できなかった作品がとても美しいものに見えてくる瞬間があります。学ぶことは、美しいと感じるものの幅が広がることでもあるのだなと最近実感しています。